

日本初の配電線による電灯供給

第2電燈局

- 住所
東京都中央区日本橋茅場町1-4
- 交通アクセス
東京地下鉄
茅場町駅 7番出口 50m

■日本初の配電線による電灯供給

明治20年(1887)11月29日、東京電燈会社(東京電力の前身)は、日本橋茅場町に設置した第2電燈局(小規模の火力発電所)から、日本で初めての配電線による電灯供給を始めました。

これは、工部大学校の講堂において、日本で初めての電灯が点灯してから9年後のことでした。

同社の開業五十年史では、この電灯供給について次のように述べています。

「架空配電による最初の電灯供給 明治二十年十一月二十一日第二電燈局が初めて落成したので、配電設備等の完成をもって試灯をなし、同二十九日より付近の日本郵船会社、今村銀行、東京郵便局などに対し、内外灯の供給を開始した。架空配電に依る電灯供給はこれを以て嚆矢*とする。その配電方式は電圧二百十ボルト直流三線式で、直立汽缶と三十馬力の横置汽機を据付け、二十五キロワット、エジソン式直流発電機一台を運転したものである」*嚆矢(こうし):物事の始め

■当時の地図での場所

図1は、前述の電灯供給開始3年前の明治17年に発行された地図です。同社の年史に記されている日本橋区南茅場町45番地は、中央部の「第2電燈局」と追記した赤丸印のところになります。

日本橋川沿いには船から荷を揚げるための河岸地が、左上には山王御旅所(現在の日枝神社)があります。右下には霊巖橋が河岸部の道路をつないでいます。



図1 東京実側全図 明治17年 京橋図書館蔵

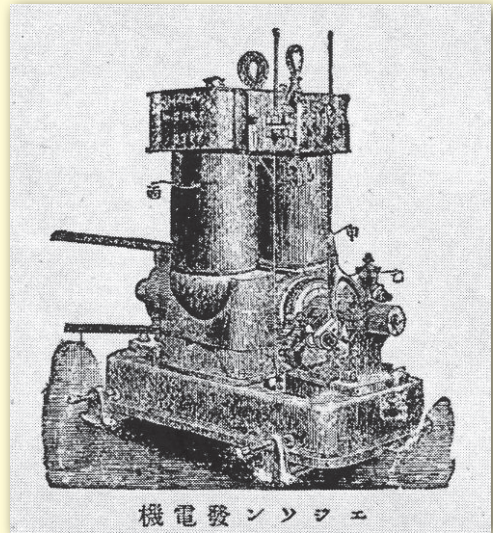


写真1 エジソン式発電機

この写真は、明治23年(1890)に発行された、東京電燈会社の「電気燈案内」に挿入されている写真です

出典 東京電燈五十年史

■現在の状況

明治時代の地図(図1)を参考に、現在の地図(図2)において第2電燈局の位置を追うと、巾広い道路の新設、河岸の消滅、霊巖橋の位置変化などがありますが、山王御旅所(現在の日枝神社)を起点にすることで、「第2電燈局」と記した丸印のところになります。

現地を訪ねたところ、第2電燈局があったと思われる場所には、一階が飲食店の事務所ビル「日本ビル」があり、住所は中央区日本橋茅場町1丁目



図2 現在の地図

目4番地でした。

辺りを調べたところ、この事務所ビルの北側道路向い側にあるホテル「トレストイン日本橋」(東電不動産株式会社経営)の玄関先に、「電燈供給発祥の地碑」がありました。



写真2 電燈局跡 正面茶色の5階建ビル
図2の左斜め上方向から撮影



写真3 ホテル前に設置されている記念碑

プレート部分には、前述した開業五十年史に記述されている「架空配電による最初の電燈供給」と同じような内容の文章が記述されています。



写真4 碑のプレート部

なお、同記念碑は、昭和62年に東京電力株式会社によって設置されました。

■場所の変遷

第2電燈局は、明治29年(1896)の浅草集中火力発電所から既存電燈局への交流による一括送電に伴い、発電所としての使命を終え配電所になります。その後、道路整備などによりトレストイン日本橋のところなどへの移転もありましたが、変電所や事務所を経て、現在のホテルに利用されています。

地図をもとに、建設時からトレストイン日本橋の場所に移転するまでの変遷を紹介します。



図3 明治44年(1911)の地図

- ・永代通りが新設され南側が大きく変化している
- ・民間工場の地号(◇)があり、変電所の存在が推察される

京橋図書館蔵



図4 大正元年(1912)の地図

- ・45番地から隣の50-2番地へ移転している

京橋図書館蔵

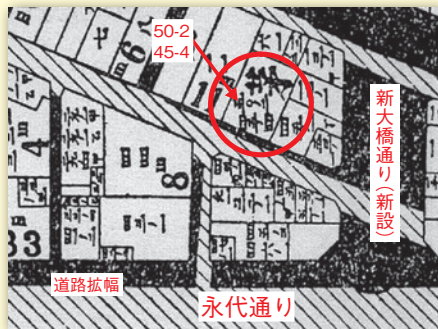


図5 関東大震災後の復興事業図(1923)

- ・永代通りの北側拡幅、新大橋通りの新設
- ・変電所の地番(50-2)は、新大橋通りの新設に伴い道路の反対側へ移っている。これに合わせての変電所の移設が推察される。

京橋図書館蔵



図6 現在の地図